

科目名	実習ゼミⅥ			授業の種類	演習	講師名		
授業回数	30回	時間数	60時間 (2単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科4年	通年	必修・選択	必修
〔授業の目的・ねらい〕								
成人における言語障害について、失語症及び高次脳機能障害を中心として、鑑別診断、症候、タイプや重症度、予後を理解すると共に、基礎的な評価法と記録、訓練法を身に付ける。								
〔授業全体の内容の概要〕								
学んだ検査法を確認し、言語聴覚士として必要な知識・技能、患者対応のあり方について学ぶ。								
〔講師の実務経験〕								
蘇生会総合病院川南病院にて言語聴覚士として9年間勤務								
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕								
失語症の情報処理過程の把握								
回数	講義内容							
1	スクリーニングテストの使い方と実施、MMST							
2	失語症の障害メカニズムと訓練法に基づき 聴覚的理解の情報処理過程							
3	〃 呼称の情報処理過程							
4	〃 音読の情報処理過程							
5	〃 書称の情報処理過程							
6	SLTAの各項目の情報処理過程の確認 ・聴くの項目							
7	〃 ・話すの項目							
8	〃 ・読むの項目							
9	〃 ・書くの項目							
10	ビデオで臨床検討 ・症状の把握と訓練計画立案について・Broca失語							
11	〃 wernicke失語							
12	〃 超皮質性、運動失語、感覚失語							
13	〃 重度失語症							
14	〃 高次脳機能障害							
15	高次脳機能障害を伴う失語症の訓練について							
16	WAB検査実施							
17	WABの検査について（特徴、分類、採点法、等）							
18	症例ビデオ検証							
19	WABの実施							
20	WAB失語症検査の特徴説明、前頭葉検査、ケースビデオ							
21	WABの実施							
22	コミュニケーションの方法、脳血管障害3主要病型、PACE							
23	コース立方体組み合わせテスト							
24	PACE、WAB							
25	WAB実施、評価							
26	レーブン色彩マトリシス、重度失語症検査、N式老年者用精神状態スケール							
27	ビデオ臨床研究							
28	Dysarthria構音訓練、コース立方体、書字障害							
29	失行、ペントン視覚記憶テスト							
30	WAB失語症検査（臨床現場での効用について）							

【 準備学習・時間外学習 】

--

【 使用テキスト 】

書籍名	著者名	出版社

【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】

筆記試験にて評価する。
-------------